

---

# 戦国BASARA学園

長宗我部(・ )氷麗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

戦国BASARA学園

### 【Nコード】

N66630

### 【作者名】

長宗我部（・）氷麗

### 【あらすじ】

奈緒が転校して来たのはBASARA学園！

そこには・・・

暑苦しい鉢巻き（真田幸村）

眼帯ズ（伊達&長宗我部）

などなど・・・

要するに奈緒からみて変な人が大量に！

だけど楽しくて暖かい所！

そこで成長する奈緒の物語！

**BASARA学園〽メチャクチャな”楽しい”日々〽道筋（前書き）**

一応話の道筋を書きます^^;

BASARA学園「メチャクチャな」楽しい」日々道筋

はあ・・・なんでこうなっちゃうんだろう・・・赤い鉢巻きはウルサイし、眼帯達は違反だし・・・私、君島奈緒きみじまなおもお手上げです！しかも真面目なのが数名しかいないってどういう事！？先生もウルサイし・・・こんな所で私やって行けるのか！？え？何？本当は気に入ってるんじゃないかって？バカ言わないでよ！って言いたいけどさ実はちよつと気に入ってるんだよね、こう言っの。これだから大変なんだけどこれがないとやっぱ嫌。ハチャメチャだけど大好きな学園だよ！

BASARA学園「メチャクチャな」楽しい”日々”？

奈緒「個々が今日から通う学園か・・・入学式には風邪で来れなかったんだよね・・・」

私、君島奈緒は眩きながら見上げた・・・

奈緒「何か人数少なそう・・・無駄にでかくない？ま、いつか・・・」

校門をくぐり空を眺めた。空には春の雲が流れていて桜吹雪が舞っていた・・・これから3年間、個々でどう暮らすのだろう・・・少し不安になった奈緒だった・・・

教室に行こう・・・とちよつと待て。

私、入学式来てないんだよね？私・・・何組なの！？

初っ端から不安・・・と言うか失敗！？

マジかよー！

そこら辺の人に聞けば良いかな・・・

と普通の人ならそうなるだろうけど

この私、君島奈緒は超がつくほど”人見知り”なのです！

初対面に自分から話しかける事はまずない！

ヤベエよ・・・これ完全に迷子状態じゃん・・・

??「貴様、どこの誰だ？名を名乗れ。」

ヒイツ！誰よこの人！何？輪刀腰に身につけてさ！

フラフラでもする気！？お腹切れちゃいますって！

奈緒「き、君島奈緒です・・・。」

??「何組だ？」

奈緒「知りません。」

??「・・・貴様カラかっているのか。」

いや！正直に言ってるだけですってば！

怖いよ！この人何！？ドス黒いオーラ出してるし！

奈緒「入学式休んだので・・・。」

怖いって！震えてるよ！足があ！！

??「・・・なら我と同じクラスだな。」

へ！？色んな意味でビックリしたよ！？

輪刀君と同じクラスなの！？そしてなぜ”我”なの！？

??「貴様は1-3だ。ついてこい。」

奈緒「ハア・・・。」

言われるがまま付いて行って到着した。教室しめつきり。窓を開けてない。

奈緒「・・・不安。」

??「・・・。」

ガラッ！

不安がつてる私を置いて輪刀君は教室に入って行った。

オイオイ！置いてくくなー！

??「よっ！元就！もとなり！」

元就・・・？輪刀君の名前かな？

元就「何をしている、貴様も入らんか。」

奈緒「うつ・・・。」

人見知りゲージがMAX行っちゃったよ！どーする奈緒！

??「あんだ、入学式休んでた君島奈緒だろ？」

奈緒「ヒイ！は、はい・・・。」

元親「俺は長宗我部元親ちようそかへもとちか！ヨロシク！」

長宗我部なんて珍しい名字・・・。変なの。

先生「そなたは君島奈緒ですか？私は担任の上杉謙信うえすぎけんしんです。」

何この先生・・・。謙信っていつの時代だよ！

周りの目線が気になる・・・。一応自己紹介しなきゃっ！

奈緒「君島奈緒です！ヨロシクお願いします！」

幸村「こちらこそ、奈緒殿。それがしさなだゆきむら某は真田幸村でござる。」

佐助「俺様は猿飛佐助さるとびさすけ、ヨロシクね、奈緒ちゃん。」

政宗「Hi！おれは伊達政宗だてまさむねだ！ヨロシクな、奈緒。」

お市「私・・・市いち・・・ヨロシク・・・。」

鶴姫「私は鶴姫つるひめです！奈緒ちゃんって呼んでも良いですか？私の事はお姉ちゃんって呼んでください！」

かすが「私はかすがだ。ヨロシクな。」

案外良い人たちなのか、それともただの明るい奴らなのか・・・。  
でも問題児のような気がするのは私だけでしょうか・・・。（佐助・  
かすがを除いて）私、上手くやって行けるのかなあ・・・。

BASARA学園メチャクチャな”楽しい”日々？（後書き）

Hi！長宗我部（・　　）氷麗だぜ！まだ完結してないけどBASARAにハマってしまったので作ってしまった・・・。皆こっちも読んでね！



BASARA学園くメチャクチャな”楽しい”日々？

あのくはつきり言っていていいですか？  
すっごい不安です！このクラス！  
え？なぜって？それは・・・。

真田「政宗殿ー！いざ、尋常に勝負！」  
伊達「負けねえぜ？you see？」

とか・・・。

元親「やんのか？」  
鶴姫「貴方には負けませんよー！」

とか・・・。

元就「ふう・・・バカめ・・・日輪ー！」

とか・・・。

お市「皆が悲しんでいる・・・。これも市のせい・・・。」  
謙信「落ち着きなさい、市さん。」

かすが「謙信サマー！他の女に触れないでくださいー！」

とか・・・。

真面目な奴は居ないのかー！

佐助「ゴメンねー、皆変な奴で。」

いたよ！唯一いたよ！佐助君がー！

奈緒「佐助君は慣れてるんだ、これ。」

佐助「まゝねゝあと、佐助で良いから。」

奈緒「じゃあ佐助、ここってさゝ．．．。」

佐助「？」

奈緒「”問題児”だらけじゃない？」

佐助「ピンポーン」

奈緒「よっしゃ！って違うからっ！」

何乗ってんだよ！私！と、思っているとチャイムがなった。

謙信「席に着きなさい、今から授業を始めます。一時限目はH Rで  
す。」

私は席に座った。私の右隣は．．．佐助！良かった、常識人だ！左  
隣は．．．お姉ちゃん（鶴姫の事）何とかやれるかも

謙信「今日は、文化祭の事について決めたいと思います。」

奈緒「文化祭って基本何するの？佐助。」

佐助「そだねゝ．．．。クラスで出し物をするんだよ、去年は3年  
はお化け屋敷やって一人泡吹いて倒れた子が居たらしいよ．．．。」

奈緒「ふうん．．．。」

鶴姫「私、カフェがやりたいなゝ？お帰りなさいませ ご主人さ．．  
．。」

奈緒「ダメダメダメダメダメダメダメ！」

メイドカフェは無理！お姉ちゃん！いくら何でも無理です！

謙信「では班の人と話し合ってください。」

私の班は・・・っと・・・。あれ？手を振ってくれてる？あそこかな？って・・・佐助いたー！常識人・・・（笑）あと真田君と、お姉ちゃん、それにかすがちゃん！

奈緒「私って個々で良いのかな？」

佐助「うん、おいで」

かすが「何をする？」

鶴姫「ハイハイ メイドカフェってどうです・・・。」

奈緒「ハイ却下っ！」

真田「よく分かってござる・・・。佐助は思いついたか？」

佐助「そだね・・・。カラクリ屋敷は？」

作れんのかよ・・・。

奈緒「作れる？」

佐助「バッチリッ！」

まさかの出来るかよ！うん・・・。でも、カラクリって覚えなきゃダメだし、救出もしなきゃダメだね・・・。（落ちた人などの）そこまでいくかどうかは知らないけど・・・。

かすが「それにするか？」

真田「良いでござるな！」

鶴姫「メイドカフェはダメなんです・・・。」

奈緒「ダメです！」

佐助「奈緒ちゃんナイス」

いま気づいた。私、奈緒ちゃんか君島か奈緒殿って呼ばれてない？

私別に奈緒でも良いのに・・・

奈緒「奈緒で良いよ？」

佐助「じゃ、奈緒って呼ばしてもらおっかな？」

奈緒「そうしてやってください。」

真田「某も奈緒って呼んでいいでござるか？某は幸村って呼んで欲しいでござる」

鶴姫「私も、私はお姉ちゃんだよね？」

かすが「私も良いか？わたしはかすがって呼んでくれ。」

奈緒「うん！」

班の人と仲良くなれました！やったぜ！

BASARA学園〽メチャクチャな”楽しい”日々〽？（後書き）

やつほ〽〽文化祭来たね〽〽カラクリ屋敷行けるかな〽〽；  
作者が不安になってます〽〽；ま、生暖かい目で見てやってくださ  
い！（生暖かいのはキツいかな・・・by 佐助&奈緒

BASARA学園「メチャクチャな”楽しい”日々」?

キンコンカンコン……。

チャイムがなつてHRは終わった。

奈緒「次は〜っと。」

佐助「理科だよ?」

奈緒「うわぁお! 佐助! ビックリしたー……。」

佐助「うわぁおって……。 (苦笑)」

奈緒「だって佐助が……。」

私は頬をふくらませてみた。そうすると私をみる佐助の目が急に優しくなったように見えて……。少し赤くなってしまった。だって……。佐助ってこんなに格好良かったっけ?

佐助「カワイイな」 さっ! 理科室行こ! 一緒に行く?」

奈緒「……。うん!」

なんだろ……。今の気持ち……。何だか気になってまともに佐助の顔見れないや……。佐助が私に視線を落としたのが分かったけどあえて見なかった……。佐助って背が高いんだな……。何かお兄ちゃんみたい……。でも……。緊張する!

真田「奈緒ー! 一緒に理科室に行くでござる!」

ナイス! 幸村!

奈緒「うん! 良いよ! 佐助も一緒にね」

真田「分かったでござる！いくぞ！佐助ええええ！」

佐助「ちよつと！廊下走んないの！」

ちよつ！二人ともはやすぎー！！追いつけないし……。

元就「我と行くか？どうせ理科室も知らぬだろうし……。」

奈緒「あ……。ありがとう 輪刀君。」

元就「輪刀君？」

奈緒「だってそれ……。」

私にとっては輪刀が一番の特徴に見えた……。

元就「元就と呼べ！バカもの！」

奈緒「ゴ、ゴメンなさい……。」

元就「まあ良い……。こつちだ、付いてこい。」

奈緒「はーい……。」

輪刀君じゃなかったんだ……。（当たり前w  
そう言えば佐助達はどうしたんだろう……。

一方佐助達は……。

佐助「奈緒は？」

真田「置いて来てしまった！」

佐助「マジかよ！しっかりしてよ旦那！」

個々が理科室か……。何か黒いオーラ出てるんですけど！？

元就「ほら、入るぞ。」

ガラッ！

カーテン閉めつきり！電気は付いてるけどマダ暗い！絶対怖いつて！

佐助「奈緒！ゴメン！置いて来てた！」

奈緒「良いよ、輪刀く・・・じゃなくて元就が連れて来てくれたから」

私は背中に感じるドス黒いオーラを察知して直した。

今回の先生は・・・、誰だろ？

光秀「フフフツ・・・。私が理科担当、明智光秀です。」

あの・・・。何時代よアンタ！光秀つて！

あー・・・。何もかも不安になって来た・・・。

光秀「まず、人殺しのポイントは・・・。」

元親「せんせー！授業で教えるものではないと思いまーす！」

ごもつともです！元親君！

何かさー・・・。寝てる人多くない！？

政宗 寝てる

鶴姫 寝てる

お市 寝てる

佐助 幸村に漢字を教えている

幸村 漢字を教えてもらっている

元親 ひたすらツツこんでる



かすが　それに同感している

元就　無視して輪刀いじくっている

やっぱ問題児が多たって正解？

色々不安になっちゃった・・・。

それに・・・、佐助ってイキナリ過ぎる・・・。ドキッとさせるのも、格好良くなるのも、優しい目をするのも・・・。

私こんなのでやって行けるかな・・・？

BASARA学園「メチャクチャな」楽しい」日々」（後書き）

理科室ではもう個性的な授業をしております。この明智光秀、一生懸命生徒に人殺しのこつを教えています。え？そんな事教えなくていい？そうですか？大事な事ですよ？（いやいやいやいや！違うから！by 佐助・奈緒・かすが・元親

BASARA学園「メチャクチャな”楽しい”日々」?

奈緒「ハウ〜! やつと終わった〜! イつちゃん《お市》! お姉ちゃん! 政宗君! 起きて!」

お市「はっ! 市は眠っていたの・・・?」

鶴姫「フワァ〜・・・そうみたいですねえ」

政宗「good morning・・・。」

まったくも〜! この三人組は〜!

元親君は教室に帰っちゃったし

輪刀く・・・じゃなくて元就も帰っちゃったし

かすがは謙信先生のとこ走ってったし・・・。

のこるはこの三人組と私と・・・。

佐助「はい良く読めました」

真田「お、終わったでござるうう・・・。」

この二人組だ。ずっと漢字に苦戦してたらしい・・・。

奈緒「おつかれ〜。幸村。」

真田「読み切ったでござるよ! すこいでござる!」

奈緒「小学生か!」

佐助「これが旦那のすごいだね〜」

いつもこれに付き合ってるのか・・・。佐助、可哀想に・・・。

お市「つぎって・・・?」

鶴姫「体育ですよ〜^^ 女子は高飛び、男子はハードル走ですよ〜」

奈緒「良く覚えてるね、お姉ちゃん・・・。」

鶴姫「フッフ」

さあて・・・。着替えよつと・・・。更衣室つてどこだっけ？

奈緒「お姉ちゃん、更衣室つてどこ？」

鶴姫「さあ^^」

奈緒「さあ！？入学式の時校内説明受けたんじゃないの！？」

鶴姫「忘れた^^」

奈緒「ハア・・・イっちゃん・・・。」

お市「忘れました。」

奈緒「はい！！？この二人はまったくもう！」

どうすんのよ！さすがが居れば良いのに！

佐助「男子更衣室と隣だしそこまで一緒にいこっか？」

奈緒「そうして・・・。この二人を当てにした私が馬鹿だった。」

佐助「ははは・・・；奈緒も苦労するね？」

真田「佐助が助けてあげれば良いものを！」

佐助「俺様はいつも旦那のせいで苦労してるの、分かってる？」

似た者どうしだな、私達・・・；

佐助「ここね、体育館まで案内するから着替えたらここで待ってて。」

「  
奈緒「うん。」

ガチャッ！バタンッ！

ふう・・・。疲れるなあ・・・。

それに体育って……。私の苦手科目No.1……。  
ウァー！厳しいってー！

鶴姫「奈緒」

奈緒「お姉ちゃんか、どしたの？」

かすが「奈緒、聞いても良いか？」

奈緒「？」

かすが「佐助とお前って付き合ってるのか？」

奈緒「な訳ないでしょ！！！」

お市「ラブラブに見えますけど……。」

奈緒「イっちゃんまでー！」

鶴姫「市ちゃんは浅井先生と出来てるのよ」

お市「／／市、恥ずかしい……。」

私って誰が好きなんだろう……。

政宗君はクールな悪？

幸村は明るい子供みたいな感じ？

元親君はカッコ良いアニキタイプ？結構顔は好みかも……。

元就は秀才だけど輪刀持つてる変な人？でも時々優しいよね？

佐助はお兄ちゃん？なのかな？どっちかって言うとおカンプバイ？

私にとっての皆の存在って……。

やっぱり皆成長して恋をして行くんだ……。

伊つつちゃんは浅井先生とか言う人に……。

かすがは謙信先生に……。

お姉ちゃんは元親君とお似合いに見える……。

私は……？

”恋”ってどんな感じなんだろう……。

BASARA学園〱メチャクチャな”楽しい”日々〱？（後書き）

皆恋の話してるみたいだね〱 俺様も混ぜてよ！ん？俺様の名前出  
なかつた？気のせいかな〱。。。て言うか奈緒！早くして！チャ  
イムなっちゃうって！次の授業お館様だから怒られるんだって！b  
y 佐助

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6663o/>

---

戦国BASARA学園

2010年11月11日23時52分発行